

高志の国
文学館

KOSHINOKUNI
Museum of Literature

高志の国文学館 年報

平成25年度

高志の国文学館 年報

平成25年度

目 次

I 平成25年度のあゆみ

- 1 平成25年度のあゆみ…………… 4

II 事業内容

- 1 展示活動…………… 8
- 2 資料概況…………… 27
- 3 教育・普及事業…………… 28
- 4 高志の国文学館友の会…………… 34

III 管理・運営

- 1 利用状況…………… 36
- 2 施設の概要…………… 38
- 3 機構…………… 39
- 4 組織…………… 40

IV 資料

- 1 沿革…………… 42

V 法令

- 1 関係法令…………… 44

I 平成25年度のあゆみ

平成25年度のあゆみ

年 月 日	事 項
※平成25年 3月20日	特別展「おおかみこどもの雨と雪－大自然に生きる母と子の物語－」 (6月3日まで)
4月7日	春の万葉集朗唱の夕べ
4月10日	写真展「入江泰吉と奈良を愛した文士たち」(5月13日まで) (協力：入江泰吉記念奈良市写真美術館)
6月30日	文学講座(大学連携シリーズ)(8月4日まで 全4回)
7月7日	特別展「立山曼荼羅を文学する」 (7月29日まで)
7月7日	開館一周年記念事業 朗読劇「天の夕顔」 (主催：「天の夕顔」実行委員会)
7月7日	平成25年度「高志プロジェクト」優秀団体の発表
8月9日	朗読と音楽の夕べ(10月25日まで 全6回)
8月10日	開館一周年特別展「辺見じゅんの世界」 (11月11日まで)
8月31日	トークイベント「梨子ちゃん・わこちゃんの『短歌って おもしろいっ!』」
9月1日	第1回万葉タンカーピレ
9月9日	シュトゥットガルト弦楽六重奏団とフルートの夕べ
9月16日	山内マリコトークショー & 特別企画「女子会」
9月19日	日本の美を考える秋の集い「観月の会」
9月29日	文学講座(ゆかりの文学者シリーズ：前期)(11月17日まで 全3回)
10月5日	日本の美を考える秋の集い(6日まで)
10月10日	入館者20万人達成
10月12日	親子のための朗読会 講師：木村まさ子氏
10月18日	高円宮妃殿下ご来館 開館一周年特別展「辺見じゅんの世界」展をご観覧
11月3日	中西進館長 文化勲章受章
11月17日	企画展「『世界のムナカタ』を育んだ文学と民藝 －棟方志功の感応力」 (平成26年2月17日まで)
12月1日	文学講座(ゆかりの文学者シリーズ：後期)(平成26年1月19日まで 全3回)
12月14日	中西進館長 富山県特別栄誉賞贈呈式・文化勲章受章記念講演会 「次代に語り継ぐ日本文化」
平成26年 1月19日	高校生による朗読会
3月20日	企画展「まんが家 藤子・F・不二雄の「SF」(すこし・ふしぎ)」 (6月2日まで)

開館一周年記念事業

平成25年7月6日(土)に高志の国文学館は開館一周年を迎えた。これを記念して、様々なイベントを開催した。

朗読劇「天の夕顔」

主催／「天の夕顔」実行委員会

(高志の国文学館、高志の国文学館友の会、北日本新聞社)

開催日／平成25年7月7日回

高志の国文学館開館一周年記念イベントとして、朗読劇「天の夕顔」を開催した(出演：竹下景子、山口馬木也)。「天の夕顔」は中河与一の同名小説が原作で、有峰や飛驒などを舞台に、21歳の男が7歳年上の人妻に思いを寄せた23年間を描いた愛の物語。開演に先立ち、中河与一氏とも交流があった中西進館長が「信じることの大切さをテーマにした作品を堪能してほしい」と挨拶した。朗読劇では、会場を訪れた約780名の聴衆が男女の純愛の物語に引き込まれた。



日本の美を考える秋の集い

約1,300年前に編纂された『万葉集』にも自然や四季の移ろいなど「美」への感動が多く詠まれているように、日本には、古から受け継がれ、そして未来へと継承されていくべき「永遠の美」「伝統の美」がある。開館一周年にあたり、改めて「美」について考える「日本の美を考える秋の集い」を開催した。

平成25年10月5日(土)～6日(日)

「織物芸術の世界」

10月5日(土)から6日(日)にかけて、龍村美術織物(京都)による作品展示を行った。龍村美術織物は、古代裂などの復元を手掛け、織物を芸術の域にまで高めたといわれている。会場では、豊臣秀吉所用の陣羽織(復元)をはじめ貴重な作品の数々が展示された。10月5日(土)には、龍村織物美術研究所の白井進氏による講演も行われた。



平成25年10月6日(日)

リービ英雄氏講演会「世界の中の万葉集」

10月6日(日)、作家のリービ英雄氏による講演会「世界の中の万葉集」を開催した。リービ氏は、外国人でありながら日本語で創作する作家の一人として知られ、昭和57年には『万葉集』を英訳し、全米図書賞を受賞している。講演では、持統天皇の一首「春過ぎて夏来るらし白栲の衣乾したり天の香具山」(巻1-28)を英訳する際に、「白栲」の「白」には「汚れのない」という意味も含まれていると感じて「ピュア ホワイト」と英訳したというエピソードなどを紹介され、「万葉集は世界最大の叙情詩である」と語った。



主なトピックス

故・辺見じゅん氏の歌碑を建立

平成25年9月23日(月・祝)、当館の初代館長に就任予定であった故・辺見じゅん氏の歌碑除幕式が執り行われた。辺見氏は、平成23年9月21日に逝去。このたび、その三回忌にあたり、辺見氏のふるさと富山を愛する心を高志の国文学館に刻むため、歌碑を建立する運びとなった。

除幕式では、辺見氏の長女であるスキャンロン香子さんが、「母はきっとこの場所に来館される皆さんに「ようこそ」と挨拶していると思う。少しでも歌碑の前で立ち止まって、母とおしゃべりしてほしい。」と感謝の言葉を述べられた。辺見氏と親交があり、特別展「辺見じゅんの世界」の記念講演で講師を務めた俳人の有馬朗人氏も除幕式に参列した。

【刻まれた歌】

海鳴りは 人恋ふるかな 古志といふ まぶしき山河 われの故郷 (第四歌集『幻花』より)



中西進館長が文化勲章を受章

平成25年11月3日(日)、中西進館長が、長年にわたる万葉集をはじめとする日本文学や日本文化、日中比較文学の研究に関する功績により、文化勲章を受章した。12月14日(土)には、文化勲章受章記念講演会「次代に語り継ぐ日本文化」が富山国際会議場で開催され、中西館長は、県内の高校生約200名を含む約800名の聴衆に対して「日本人が持つ自然を尊ぶ心、豊潤な情感を次世代に継承していかなければならない。」と語りかけた。

また、講演に先立ち、富山県が新たに創設した「富山県特別栄誉賞」の贈呈式が行われた。中西館長は、謝辞の中で「万葉歌人の大伴家持のおかげで富山との縁が生まれた。この賞の第一号にふさわしいのは自分ではなく大伴家持。」と述べた。



高志の国文学館入館者が20万人を突破

平成25年10月10日(木)、高志の国文学館の入館者が20万人を突破した。20万人目の入館者に対して、石井知事から、記念品として特別展『辺見じゅんの世界』の図録や中西館長のサイン入り著書などが贈られた。20万一人目、20万二人目の入館者に対しても、記念品が贈られた。

平成25年度末までの累計入館者数は、24万7,681人となった。



II 事業内容

1. 展示活動

□常設展示

概要

常設展示では、当館の収蔵資料を中心に、万葉歌人・大伴家持の越中万葉から現代文学に至るまで、富山県にゆかりのある作家や作品の魅力を紹介している。また、文学だけでなく、漫画や本県ゆかりの先人についても紹介している。

<ふるさと文学の回廊>

富山県ゆかりの代表的な文学者10人を、パネルや直筆原稿などの資料で紹介。この10人については、順次展示替えを行うこととしている。また、回廊内に設置した4つのデジタル万華鏡では、大伴家持の生涯や山岳文学、富山県ゆかりの漫画家や先人について紹介。



「ゆかりの文学者たち」コーナー

<ふるさと文学の蔵①>

古代・中世の富山県ゆかりの文学作品を紹介するとともに、大書架「知の蓄積」では、富山県ゆかりの書籍や寄贈された資料を展示。

体験型装置「万葉とばし」では、大伴家持が詠んだ歌を音と映像で紹介。



体験型装置「万葉とばし」(左)と大書架「知の蓄積」(右)

<ふるさと文学の蔵②>

「ふるさと文学年表」により、万葉の時代から続く富山の文学について、その変容と発展を時代背景とともに紹介。

<ふるさと文学の蔵③>

富山県ゆかりの漫画家をパネルや愛用品とともに紹介。デジタル装置「不思議な本」では、漫画・アニメーションの制作工程を学ぶことができる。

このほか、富山大学附属図書館に所蔵されているヘルン文庫(小泉八雲の旧蔵書)や、富山が輩出した偉大な先人について紹介。



「ゆかりの漫画家たち」コーナー



「越中の先人」コーナー

□ 展示構成

平成26年3月31日現在

展示場所	展示の名称	展示の概要
導入展示	文学鳥瞰地図	富山県内に点在する文学ゆかりの地等を検索
	ふるさと文学万華鏡	大伴家持の生涯や山岳文学の歴史をデジタル絵巻で紹介
ふるさと文学の回廊	ゆかりの文学者たち	翁 久允 瀧口修造 新田次郎 角川源義 遠藤和子 源氏鶏太 堀田善衛 柏原兵三 木崎さと子 宮本 輝
	ふるさと文学万華鏡	富山県ゆかりの漫画家や先人を映し出すデジタル万華鏡
ふるさと文学の蔵①	大書架「知の蓄積」	富山県ゆかりの書籍や寄贈資料を展示
	万葉とばし	大伴家持が越中で詠んだ歌を音と映像で紹介する体験型装置
	古代の文学／中世・近世の文学	万葉集、立山曼荼羅等を紹介
ふるさと文学の蔵②	ふるさと文学年表	万葉の時代から続く富山県ゆかりの文学や文学者等を紹介
ふるさと文学の蔵③	ゆかりの漫画家	藤子不二雄 [㊤] 藤子・F・不二雄 山根青鬼 山根赤鬼 まつもと泉 原 秀則 花咲アキラ
	ヘルン文庫	ラフカディオ・ハーン（小泉八雲） 南日恒太郎
	越中の先人	石黒信由 安田善次郎 浅野総一郎 高峰讓吉 林 忠正 藤井能三

(注1) ゆかりの文学者および先人の一部について、関係の機関や個人より実物資料を借用のうえ展示した。

(注2) ヘルン文庫の展示については、富山大学附属図書館の協力を得て、所蔵資料の借用・展示を行った。25年度は4回の展示替えを行った。

□企画展示

(1)特別展「立山曼荼羅を文学する」

会 期／平成25年7月7日回～7月29日回

主 催／高志の国文学館

共 催／富山県〔立山博物館〕

担当学芸員／福江充

観 覧 者 数／2,286人

出 品 点 数／29点

印 刷 物／ポスター A1判 チラシ A4判

ガイドブック『立山曼荼羅を文学する』
(A4判カラー8頁)



ポスター



ガイドブック

趣旨・総括

越中人の二大精神文化として立山信仰と浄土真宗の世界観があげられる。立山開山縁起における佐伯有頼少年が困難を克服し大事を成し遂げる物語や、真宗の「土徳」の精神は、近年、学校教育においても越中人の「アイデンティティ」として再認識されてきている。

こうした立山信仰の精神世界を網羅的に描いた絵画に「立山曼荼羅」がある。立山山中を舞台に地獄や極楽浄土の様子を強烈に描いた立山曼荼羅は、そのビジュアル的なインパクトと立山衆徒（立山信仰にかかわった立山山麓の芦峯寺村と岩峯寺村の宗教者たち）の巧みな絵解きで、多くの人々を魅了した。

さて、国文学界では早くから、説話・物語や説話画、絵解きなども着目されてきた。そのなかで立山曼荼羅およびその絵解きに関する研究が、関係資料の発見や昭和60年代に刊行された立山曼荼羅24作品の大型図版「立山曼荼羅集成」などによって大いに脚光をあびた。それに相まって、県内の真宗寺院で行われていた真宗

の高僧絵伝の絵解きなども注目されるようになった。全国的には衰退の一途をたどる絵解き文化が、富山県内では比較的多く残っているのである。

こうしたなかで今回の特別展では立山曼荼羅の絵解きを題材として、越中人、ひいては日本人の精神文化の世界観を紹介した。

立山曼荼羅とは？

立山曼荼羅は、立山にかかわる山岳宗教、いわゆる「立山信仰」の内容が網羅的に描かれた掛軸式絵画のことである。大きなものでは縦160cm×横240cmにも及び、これまでに50点の作品が確認されている。

画面には、立山の山岳景観を背景として、この曼荼羅の主題である「立山開山縁起」のいくつかの場面をはじめ、立山地獄の様子、阿弥陀如来と諸菩薩の来迎場面、立山山麓・山中の名所や旧跡、芦峯寺布橋灌頂会の様子などが、マンダラのシンボルの日輪(太陽)・月輪(月)や参詣者などとともに、巧みな画面構成で描かれている。

こうした立山曼荼羅は、立山信仰を護持し、各地で勧進布教をした立山衆徒(芦峯寺衆徒と岩峯寺衆徒)に絵解きされ、立山信仰の世界観や御利益が、庶民のみならず徳川將軍夫人や江戸城大奥女中、幕府老中や諸大名など、近世身分制社会の最上級の人々にまで幅広く受け入れられた。立山信仰は山中の血の池に由来する血盆経信仰や布橋灌頂会など、女人救済に特徴があった。信徒には新吉原の遊女も見られ、また作品のなかには天璋院篤姫や皇女和宮にゆかりの立山曼荼羅も存在する。



展示風景



展示風景



絵解き解説

□関連行事

①立山曼荼羅の絵解き解説

開催日	講師	参加者数
7月13日(土)	米原 寛氏 (元 富山県 [立山博物館] 館長)	100
7月17日(水)		100

②関連講座

開催日	講師	演題	参加者数
7月12日(金)	加藤 基樹氏 (富山県 [立山博物館] 主任・学芸員)	立山曼荼羅における救済の論理 - おのれの善と悪を知ること -	68

□主な展示作品

①立山曼荼羅の実物作品

- ・立山曼荼羅「吉祥坊本」(絹本4幅、富山県 [立山博物館] 所蔵)
- ・立山曼荼羅「宝泉坊本」(絹本4幅、個人所蔵・富山県 [立山博物館] 寄託資料)
- ・立山曼荼羅「富山県 [立山博物館] A 本」(紙本2幅、富山県 [立山博物館] 所蔵)

②立山曼荼羅のレプリカ (絵解き解説用)

- ・立山曼荼羅「大仙坊 A 本」(当館所蔵)
- ・立山曼荼羅「吉祥坊本」(当館所蔵)

③立山曼荼羅集成

- ・立山曼荼羅諸本の大型図版 (額装) 24作品 (富山県 [立山博物館] 所蔵)

(2)開館一周年特別展「辺見じゅんの世界」

会 期／平成25年 8月10日 土～11月11日 日

《前期》

「辺見じゅんが見た風土」

8月10日 土～9月23日 日 休

《後期》

「辺見じゅんが語り継ぐ父たちの世紀」

9月27日 土～11月11日 日 休

主 催／高志の国文学館

担当学芸員／綿引香織

観 覧 者 数／4,711人

出 品 点 数／約370点

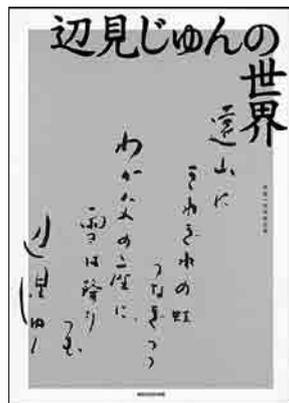
印 刷 物／ポスター A1判 チラシ A4判

図録『辺見じゅんの世界』

(A4判カラー62頁)



ポスター



図録

趣旨・総括

当館の初代館長に就任する直前に急逝した富山県出身の歌人・作家 辺見じゅん。当館の開館1周年に開かれたこの展覧会は、短歌・民話・ノンフィクションと多彩な分野で活躍した彼女の文学活動の軌跡と作品世界を紹介する初めての試みとなった。本展では会期を2期に分け、会場の約3分の1にあたる第1章の部分について展示替えを行った。

辺見じゅんがどのように作家・歌人として出発したか、その文学的な原点を考える際に、角川書店の創業者にして国文学者・俳人でもある父・角川源義の存在は非常に重要である。生前の辺見は、父について語った文章や短歌を数多く残しており、辺見文学の大きな部分を占めている「民俗・民話の調査」「短歌」「太平洋戦争」という要素（さらには後年の「出版業」への進出も）は、父・源義の大きな影響を受けていることがうかがえる。そこで、序章の「娘にとっての「父」

——辺見じゅんの文学の原点」では、國學院大学で折口信夫や柳田國男らに学んだ角川源義の学問、短歌、戦争体験について、そして俳句について、直筆の書簡やノート、歌稿、蔵書等により紹介した。また、辺見じゅんの文学活動のはじまりとして、高校生の頃に参加していた同人誌『泰山木』の創刊号や、当時の写真、「自分の行くべき道は文学しかない。ただやれるだけ進んでいこうと思う」という決意が書かれた友人あての書簡なども展示した。

次の第1章「辺見じゅんの作品世界」は、前期と後期に分けて展開した。前期のテーマ「辺見じゅんが見た風土」では、日本全国や富山の自然、風土、民俗・民話に取材したノンフィクション作品、短歌や随筆などをとりあげた。もともと父の影響もあって民俗学に興味を持っていた辺見は、昭和50年頃から日本の各地をめぐり、その土地の風土や民俗伝承などを調査するようになる。訪れる土地はほとんどすべて、かつて父が訪れていた場所だったといい、結果的に、父の足跡をたどる旅でもあった。こうして生まれた『呪われたシルク・ロード』『ふるさと幻視行』『探訪・北越雪譜の世界』などの作品について、貴重な取材ノートや取材テープ、写真、パネル等によって紹介したのが「日本の風土 一父の足跡をきっかけとして」のコーナーである。聞き書き取材は、取材相手の信用を得ることが必要であり、取材対象がいかに心を開き、話をしやすい環境をつくるかの手腕が問われるものである。取材テープからは、こうした取材活動の一端を垣間見ることができる。

また、彼女が自らを育んだ北陸や富山の風土をどのようにとらえていたのかを探ったのが「ふるさとの山河 一父祖の血の記憶」のコーナーである。昭和39年に本名の「清水真弓」名義で発表した最初の小説『花冷え』は、少女時代に富山の祖父父母のもとで過ごした思い出が反映された作品であり、現在では入手困難となっている。富山をはじめとする日本各地で出会った民話と、作者辺見の人生の一場面が織り込まれた随筆集『花子のくのにの歳時記』、県内に伝わる伝説を採集した『富山の伝説』（角川書店の『日本の伝説』シリーズ）を紹介し、「十六人谷」の直筆原稿などを展示した。

歌人である辺見は、ふるさとを詠んだ短歌を数多く残している。ふるさとを「父祖の地」「高志のくに」と呼び、幼い頃から親しんだ「常願寺川」「蔵」「海鳴り」「雪」「立山」「立山曼荼羅」などを歌に詠んだ。

後期のテーマ「辺見じゅんが語り継ぐ父たちの世

紀』では、第二次世界大戦を題材にしたノンフィクション『男たちの大和』、『収容所から来た遺書』の2作品に焦点をあてた。

日本海軍の切り札としてひそかに建造された史上最大の戦艦「大和」は、昭和20年4月7日、沖縄水上特攻に向かう途中、東シナ海に沈没した。乗組員3,333人のうち、生き残ったのはその一割にも満たない約270名しかいなかったという。辺見は、消息を確認できた117人に、昭和54年から3年余かけて取材を行い、ノンフィクション作品『男たちの大和』にまとめた。

「死者への鎮魂と思慕 — 『男たちの大和』」のコーナーでは、全長263メートルあった戦艦大和の144分の1の模型、大和の元乗組員や遺族にインタビューした際の取材テープ、約8,000枚に及んだというテープ起こし原稿の一部（表紙や本文には辺見による様々な書込が見られる）、平成17年に公開された映画「男たちの大和 / YAMATO」のスチール写真などを展示した。

次に紹介した作品『収容所から来た遺書』は、戦後のシベリア抑留に取材した作品である。第2次世界大戦で日本が敗戦した直後、満州や樺太・千島、北朝鮮にいた日本軍兵士や民間人らはソ連に連行され、戦後もシベリアはじめソ連領内各地で、長期間にわたり強制労働に従事させられていた。その数は60万人以上といわれているが、その後、厳しい寒さ、劣悪な環境、苛酷な重労働により、7万人近い日本人が亡くなったという。

本作の主人公である山本幡男さんは、南満州鉄道の調査部に勤めていて、敗戦直後にシベリアに抑留された。彼は日本に帰ることなく病気で亡くなってしまったが、収容所にいる間、日本に帰国できることを信じて疑わず、勉強会や句会などを開いて仲間を励まし、大きな影響を与えていた。亡くなった後、仲間た

ちの手により、「記憶」という驚くべき手段で遺書の内容が家族に伝えられたことを語った感動の物語である。

作品執筆のきっかけとなった「昭和の遺書」の企画（読売新聞、角川書店）で寄せられた遺書をまとめた『昭和の遺書』、直筆の取材ノートや構想メモ、インタビュー速記録、第21回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞した際の写真などを展示したのが「『偉大なる凡人の生涯』を見つめて — 『収容所から来た遺書』」のコーナーである。

第2章「辺見じゅんからのメッセージ」では、彼女が残した言葉や短歌などから、現代や次の世代に向けたメッセージやふるさと富山への思いを探った。また、「辺見じゅんが愛したもの」のコーナーでは、当館に寄贈された貴重なコレクションについても紹介した。このコレクション（辺見旧蔵資料）は約2,500点であり、辺見じゅん・角川源義の著作物、旧蔵書、執筆資料、愛用品などが含まれる。ここでは、岸田劉生「武者小路実篤像」や与謝野晶子の短冊、片山廣子が芥川龍之介にあてた書簡などの近代文学に関する貴重な資料、堀田善衛や源氏鶏太、瀧口修造などの富山ゆかりの作家の収集品、著者特装本や作務衣、アンティークランプなどの辺見じゅん自身に関わる資料を展示した。

本展では、辺見作品のもとになっている豊富な取材資料なども展示し、膨大な取材や調査をもとに書かれているノンフィクション作品の創作の舞台裏が伺える貴重な機会となった。今回は辺見じゅんの多彩な文学作品と活動の一端を紹介したが、彼女が作品を通して日本人に伝えようとしていたものは何か、改めて考える機会となったならば幸いである。



エントランスに辺見の書斎をパネルで展示



『男たちの大和』関連草稿と関係者への取材資料

□関連行事

①講演会

開催日	講師	演題	会場	参加者数
8月10日(土)	角川 春樹氏(俳人)	夕鶴の家	富山県教育文化会館	400
8月18日(日)	岡野 弘彦氏(歌人)	角川家の文学	富山県教育文化会館	108
9月23日(月・祝)	有馬 朗人氏(俳人)	芸術と対称性 ―東西文化の違い―	富山県民会館	192
10月14日(月・祝)	西木 正明氏(作家)	作家辺見じゅんのまなざし	富山県教育文化会館	125
11月2日(土)	角川 歴彦氏 (株式会社KADOKAWA 取締役会長)	辺見じゅんと蔵の中	当館研修室101	105

②映画上映会

「男たちの大和／YAMATO」

【開催日】8月14日(水)①10:00～ ②14:00～

【会場】富山県教育文化会館

【観覧者数】①140人 ②103人

③辺見じゅん歌碑除幕式

【開催日】9月23日(月・祝)12:00～

【会場】当館導入展示コーナー、当館南側敷地内の歌碑前

④朗読と音楽の夕べ

【開催日】9月27日(金)18:30～19:20

【会場】当館ライブラリーコーナー

【作品】辺見じゅん『ダモイ 遙かに』

【出演者】朗読者：中條誠子(NHK 富山放送局)

演奏：冬野ユミ(ピアノ)

【参加者】207名

⑤関連イベント(作品紹介とトーク)

「梨子ちゃん・わこちゃんの『短歌って おもしろいっ!』」

【開催日】8月31日(土)14:00～15:00

【会場】当館ライブラリーコーナー

【出演者】松田梨子、松田わこ、中西進館長

【参加者】85名

□主な展示物 ※当館蔵資料の大部分を辺見じゅん旧蔵資料によっている。

種別	資料(作品)名	作者	年代	所蔵
エントランス				
パネル	写真パネル 辺見じゅんの書斎			当館
序章 娘にとっての「父」——辺見じゅんの文学の原点				
色紙	色紙「遠山にきれぎれの虹つなぎつつわが父の座に雪は降りつむ」	辺見じゅん		当館
愛用品	角川源義愛用の文机・文房具			当館
書籍	『悲劇文学の発生』	角川源義	昭和17年(1942)	当館
ノート	自筆ノート	角川源義	昭和4年(1929)	当館
原稿	歌稿	角川源義		当館
書簡	葉書 藤井春洋宛	角川源義	昭和17年(1942) 8月11日消印	当館
書籍	『鳥船』新集第一、第二	藤井春洋編	昭和18年(1943)	当館
書簡	葉書 折口信夫宛	角川源義	昭和20年(1945) 6月22日消印	当館
ノート	手作り句集『風の日は風の日で』	角川源義		当館
色紙	色紙 「歳月のかなた浄めて来しが雪」	辺見じゅん		当館
雑誌	同人誌『泰山木』創刊号	あかり文芸会	昭和31年(1956)	当館
写真	10代の辺見じゅん			個人
書簡	封書 友人宛	辺見じゅん	昭和32年(1957) 8月16日消印	個人
第1章 辺見じゅんの作品世界				
【前期】 辺見じゅんが見た風土				
1. 日本の風土 ——父の足跡をきっかけとして				
書籍	『呪われたシルク・ロード』	辺見じゅん	昭和50年(1975)	当館
書籍	『ふるさと幻視行』	辺見じゅん	昭和53年(1978)	当館
ノート	民話取材ノート	辺見じゅん		当館
音声資料	インタビューテープ 14点	辺見じゅん	昭和51年(1976)頃	当館
愛用品	取材用レコーダー			個人
書籍	『北越雪譜』(複製) 7冊	鈴木牧之	昭和50年(1975)	当館
書籍	『探訪・北越雪譜の世界』 2冊	辺見じゅん、 北井一夫	昭和57年(1982)	当館
ノート	取材ノート 新潟県	辺見じゅん	昭和51年(1976) 3月7日～11日	当館
ノート	取材ノート 秋山郷	辺見じゅん		当館
愛用品	トランク			当館
2. ふるさとの山河 ——父祖の血の記憶				
書籍	『花冷え』	清水眞弓 (辺見じゅん)	昭和39年(1964)	当館
写真	水橋の風景			当館

種別	資料(作品)名	作者	年代	所蔵
書籍	『富山の伝説』	辺見じゅん	昭和52年(1977)	当館
原稿	「十六人谷」	辺見じゅん		富山県立図書館
愛用品	辺見じゅん愛用のペンケース、万年筆			個人
書籍	『花子のくにの歳時記』	辺見じゅん	平成3年(1991)	当館
写真	立山登山時の父娘		昭和30年(1955)	個人
原稿	歌稿「越の潮鳴り」	辺見じゅん		当館
ノート	短歌草稿メモなど	辺見じゅん		当館
写真	布橋灌頂会に参加する辺見じゅん			提供：北日本新聞社
書籍	歌集『雪の座』	辺見じゅん	昭和51年(1976)	当館
書籍	歌集『闇の祝祭』	辺見じゅん	昭和62年(1987)	当館
陶磁器	第12回現代短歌女流賞受賞記念品			当館
【後期】 辺見じゅんが語り継ぐ父たちの世紀				
1. 死者への鎮魂と思慕 ——『男たちの大和』				
写真	米機の攻撃で爆沈する大和(複製)		原本：昭和20年(1945) 4月7日	提供：大和ミュージアム
書籍	『戦艦大和の最期』	吉田 満	昭和27年(1952)	当館
雑誌	『サロン』第4巻第5号 (吉田満『小説 軍艦大和』掲載)		昭和25年(1950)年6月	当館
パネル	『軍艦大和戦闘詳報』		原本：昭和20年(1945) 4月20日	提供：防衛省防衛研究所 戦史研究センター
模型	戦艦大和(144分の1縮尺)			一宮勝男氏 (公益財団法人伏木富山港・海王丸財団寄託)
雑誌	『野生時代』切抜 (『男たちの大和』掲載頁)	辺見じゅん		当館
印刷物	校正原稿『男たちの大和』	辺見じゅん		当館
書籍	『男たちの大和〈上下〉』	辺見じゅん	昭和58年(1983)	当館
音声資料	インタビューテープ 29点	辺見じゅん		当館
原稿	インタビュー速記録 約50点			当館
写真	第3回新田次郎文学賞受賞時の辺見じゅん		昭和59年(1984)	個人
書籍など	取材資料、参考資料			当館
写真	映画 「男たちの大和/YAMATO」 スチール 2点	©2005 「男たちの大和 /YAMATO」 製作委員会	平成17年(2005)	当館
写真	呉を訪問する辺見じゅん			当館
2. 「偉大なる凡人の生涯」を見つめて ——『収容所から来た遺書』				
書籍	『昭和の遺書』	辺見じゅん	昭和62年(1987)	当館
書籍	『収容所から来た遺書』	辺見じゅん	平成元年(1989)	当館
写真	第21回大宅壮一ノンフィクション賞 贈呈式での辺見じゅん		平成2年(1990)	個人

種別	資料(作品)名	作者	年代	所蔵
ノート	取材ノート(メモ2点付)	辺見じゅん		当館
メモ	直筆メモ	辺見じゅん		当館
メモ	構想メモ(第3章)	辺見じゅん		当館
原稿	インタビュー速記録 17点			当館
写真	シベリア訪問時の辺見じゅん			当館
書籍	『北東アジアの諸民族』	山本幡男	昭和16年(1941)	当館
印刷物	演劇パンフレット	劇団俳優座		当館
第2章 辺見じゅんからのメッセージ				
2. 辺見じゅんが愛したもの				
原稿	『昭和の遺書』後書き	辺見じゅん		当館
書籍	『レクイエム 太平洋戦争』	辺見じゅん	平成6年(1994)	当館
書籍	『戦場から届いた遺書』	辺見じゅん	平成15年(2003)	当館
書籍	『よみがえる昭和天皇』	辺見じゅん・保阪正康	平成24年(2012)	当館
絵画	「武者小路実篤像」	岸田劉生	大正8年(1919)	当館
書籍	『春と修羅』	宮沢賢治	大正13年(1924)	当館
書籍	『高野聖』	泉鏡花	明治41年(1908)	当館
書籍	『鶉籠』	夏目漱石	明治40年(1907)	当館
書籍	『道程』	高村光太郎	大正3年(1914)	当館
書籍	『月に吠える』	萩原朔太郎	大正6年(1917)	当館
短冊	「何となく君にまたる、心地して出でし花野の夕月夜かな」	与謝野晶子		当館
書籍	『みだれ髪』	与謝野晶子	明治34年(1901)	当館
書籍	『若菜集』	島崎藤村	明治30年(1897)	当館
書籍	『一握の砂』	石川啄木	明治43年(1910)	当館
短冊	「たまくしげ箱根の山に夜もすがらす、きを照らす月の清けさ」	齋藤茂吉		当館
書簡	封書 芥川龍之介宛	片山廣子	大正13年(1924)9月～翌年9月	当館
書籍	『翡翠』	片山廣子	大正5年(1916)	当館
書籍	『羅生門』	芥川龍之介	大正6年(1917)	当館
書籍	『ルウベンスの偽画』	堀辰雄	昭和8年(1933)	当館
原稿	「セットにて」	堀田善衛	昭和41年(1966)頃	当館
ノート	日記	源氏鶏太	昭和5年(1930)	当館
書籍	『青い夜道』	田中冬二	昭和4年(1929)	当館
書籍	『ダリ』	瀧口修造	昭和14年(1939)	当館
書籍	特装本『幻花』	辺見じゅん		当館
愛用品	辺見じゅん愛用の作務衣			当館
愛用品	辺見じゅん愛用のアンティークランプ			当館
愛用品	カレンダー		平成23年(2011)	個人

(3)企画展 『『世界のムナカタ』を育んだ文学と民藝 -棟方志功の感応力』

会 期／平成25年11月17日回～
 平成26年 2月17日回
 ただし展示替えのため1月5日回～
 1月10日回までは常設展のみ。

主 催／高志の国文学館
 協 力／南砺市立福光美術館

担当学芸員／福江充

観 覧 者 数／3,834人

出 品 点 数／536点

印 刷 物／ポスター A1判 チラシ A4判

図録『世界のムナカタを育んだ文学と民藝 -棟方志功の感応力』(A4判カラー79頁)



ポスター



チラシ



図録

趣旨・総括

戦時中、富山県福光町に疎開した棟方志功は、板画家として著名であるが、保田與重郎らの日本浪漫派や児童文学の文人たちと交流し、多くの作家たちの装画も手がけるようになった。

のちに棟方は、浪漫派の影響を受け「大和し美し」を発表するが、同作品が機縁となり、柳宗悦を中心とする民藝運動の指導者たちとも交流するようになった。彼らから宗教的な影響を受けたことで、棟方の創作意欲は極度に高まり、強烈かつ個性的な板画作品を次々生み出していった。

絵と言葉、詩、あるいは詞で構成された作品はもちろん、民話や古典に材を得た作品など、棟方の生涯の板業には彼の「文学を愛する心」が通底していることは

疑いない。

さて、当文学館では、棟方と文学とのかかわりを示す資料として、彼が描いた膨大な装画本を収めた「山本コレクション」(個人コレクション)を展示する機会を得た。今回の展覧会では、同コレクションの装画本の数々と板画作品の代表作を時系列的かつ類型的に展示することで、棟方の板業が「文学」や「民藝」的思想にどのように感応して成立していったのかを考察、及び紹介した。



展示風景



展示風景



展示風景

□関連行事

①講演会

開催日	講師	参加者数
11月24日(日)	山本 正敏 氏 (装画本コレクション所有者)	49
1月26日(日)		72

②ギャラリートーク

開催日	講師	参加者数
12月22日(日)	杉野 秀樹 氏 (富山県立近代美術館学芸課長)	26
1月12日(日)	奥野 達夫 氏 (南砺市立福光美術館館長)	45
2月2日(日)	浅地 豊 氏 (富山県水墨美術館副館長)	44
2月9日(日)	渡邊 一美 氏 (南砺市立福光美術館学芸員)	28

※このほか、担当学芸員による解説を随時実施。

□主な展示物

○棟方志功装画本 (山本コレクション)

新美南吉、與田準一、百田宗治、堀口大學、関根順三、河口安三、佐藤一英、佐藤春夫、伊藤 整、伊藤佐喜雄、蔵原伸二郎、和田 傳、小山いと子、打木村治、保田與重郎、中谷孝雄、中河與一、倉田百三、徳田秋声、森本 忠、浅野 晃、木山捷平、小高根二郎、筏井嘉一、阿部静枝、谷崎潤一郎、花岡大學、宮澤賢治、水谷良一、中山義秀、村松梢風、壇 一雄、吉井 勇、大佛次郎、中曾根康弘、獅子文六、山崎豊子、今 東光、柳 宗悦、河井寛次郎、濱田庄司、大原総一郎、永田耕衣、宮田 輝、高木恭造、岩倉政治、岡部文夫、稗田堇平、舟川榮次郎、高田其月、橋本米次郎、砂土居士郎、前田普羅、中島杏子など。

○棟方志功板画作品

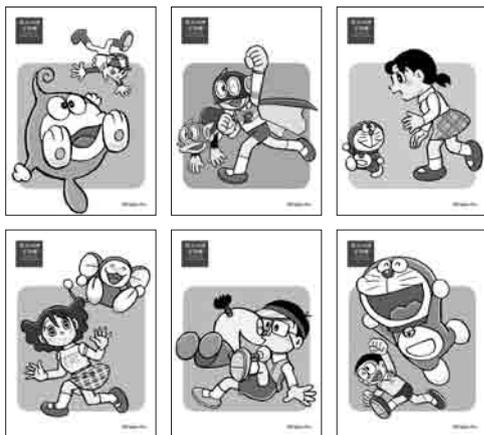
「大和しよし」2巻(21冊)、「善知鳥版画巻」3巻(31冊)、「空海頌」屏風6曲1隻(54冊)「華嚴譜」(24冊のうち、女神の冊、雷神の冊、不動明王の冊、文殊菩薩の冊、阿弥陀如来の冊、大日如来の冊、風神の冊、母神の冊)、「夢応鯉魚版画冊」(20冊のうち、名の冊、興義の冊、死床の冊、酒盛りの冊、御河伯の冊、濡裳の冊、哭叫の冊、神妙の冊)、「女人観世音板画卷」(20冊のうち、観世音の冊、牡丹の冊、松巖の冊、振向妃の冊、仰向妃の冊)、以上、日本民藝館蔵。「二菩薩釈迦十大弟子」屏風6曲1双(12冊)富山県立近代美術館蔵、「流離抄板画冊」(32冊のうち、広鱗の冊、万葉の冊、紅灯の冊、かにかくいの冊、樊噲の冊、澄愁の冊、古裕の冊、空海の冊、天狗の冊、石仏の冊、叡山の冊、静春の冊、春立の冊、夢殿の冊、愛壺の冊、屏風の冊)、以上、南砺市立福光美術館蔵。「瞞着川板画卷」1巻(39冊)、「安川カレンダー瞞着川頌」(13冊のうち12冊)、以上、南砺市立福光美術館蔵。

(4)企画展「まんが家 藤子・F・不二雄の「SF」(すこし・ふしぎ)」

会 期／平成26年 3月20日(木)～6月2日(日)
 主 催／高志の国文学館
 協 力／藤子プロ、
 川崎市 藤子・F・不二雄ミュージアム
 担当学芸員／大川原竜一
 観 覧 者 数／1,338人(平成25年度中)
 (全会期中は、10,021人)
 出 品 点 数／267点
 (キャラクターパネル、製作物等含む)
 印 刷 物／ポスター A1判 チラシ A4判
 子ども券 6種類



ポスター



子ども券 6種類

趣旨・総括

『ドラえもん』をはじめとする数多くの人気作品を生みだした富山県出身のまんが家、藤子・F・不二雄(本名：藤本弘)。手塚治虫に憧れてまんが家の道を歩み、児童・少年まんがの新時代を築いた。

藤子・F・不二雄は、自分の作品について、現実にあるかもしれない不思議な世界を子ども時代の生活体

験をベースに描いた、日常性からはみ出した「SF(すこし・ふしぎ)」の物語であると語っている。本展では、藤子・F・不二雄の奥深く壮大な作品に息づく「SF」の世界、そして、彼の創作に対する姿勢と視点を紹介した。また、作品に込められた思いをメッセージやエッセイから読み解き、今もなお多くの子もたちに夢と希望を与える藤子・F・不二雄まんがの魅力と、「SF」の原風景である富山での子ども時代の体験と記憶を探った。

富山時代のゾーンでは、高校の卒業アルバムなど初公開を含む貴重な資料を展示するとともに、当時、新聞や雑誌に掲載されたコマまんがや読み切り作品を展示し、初期の創作活動を探った。

上京後のゾーンでは、プロのまんが家として活動した全時期をたどり、少女まんがや時代活劇まんが、「SF」の世界が彩る生活ギャグまんがなど多様に展開した作品世界を紹介した。初の単行本化となった『UTOPIA 最後の世界大戦』(藤子不二雄[Ⓐ]氏との共著)をはじめとする県内収集家の貴重なコレクションを一堂に並べ、「SF」作品が確立されるまでの軌跡を追った。また、藤子プロと川崎市 藤子・F・不二雄ミュージアムの協力を得て、『ドラえもん』『ミノタウロスの皿』などの原画を特別に展示し、さらには個人蔵の『山びこ剣士』『かげろう剣士』の初期作品の貴重な原画を公開した。

その他、展示室内に、高岡地域地場産業センターの開設に合わせ製作された緞帳と、その切り絵原画を初めてセットで展示することができた。また、執筆風景やアイデアを探し練っている様子の写真(画像)を映写し、人物像を紹介した。

文学館エントランスには『ドラえもん』、導入展示には『キテレッツ大百科』『エスパー魔美』などのキャラクターパネルを置き、藤子・F・不二雄まんがの夢と希望の世界を演出した。また、庭には、彼が子どもの頃の思い出をイメージして描いた「土管の広場」を再現して、来館者がその作品世界を体感できるようにした。



展示風景 富山時代



展示風景



展示風景 緞帳と切り絵原画

□関連行事

①文学講座

開催日	講師	演題	受講者数
4月12日(土)	吉村 和真氏 (京都精華大学マンガ学部長)	「子供漫画の王様」の魅力と人生に迫る	30
4月26日(土)	近藤 周吾氏 (富山高等専門学校准教授)	「今日あなたは歴史にかかわった」 ～ SF な世界への招待状～	30

②記念講演

開催日	講師	演題	受講者数
5月6日(火・振休)	山根 青鬼氏 (漫画家)	「私のまんが道」	64
5月17日(土)	瀬名 秀明氏 (作家)	「一度も会えなかった藤子・F・不二雄先生が、 ぼくに教えてくれたこと」	98

③ワークショップ

開催日	内容	受講者数
5月5日(月・祝)	「山根青鬼先生の漫画教室」	39

④バスツアー

開催日	内容	受講者数
4月27日(日)	ゆかりの地の見学ツアー (砺波駅・高岡駅 発)	13
5月3日(土)	ゆかりの地の見学ツアー (魚津駅・富山駅 発)	27

□主な展示物

種 別	資料（作品）名	作 者	年 代	所 蔵
映 像 (スライド画像)	藤子・F・不二雄の肖像写真（画像）		昭和29年（1954）～ 昭和56年（1981）	画像提供：藤子プロ
製 作 物	反射幻燈機（イメージ）レプリカ	製作：高志の国文学館	平成26年（2014）	製作協力：藤子プロ、 川崎市 藤子・F・不二雄 ミュージアム
雑 誌	『朝日ジャーナル臨時増刊 手塚治 虫の世界』 「昭和23年春のある虫ファン」	藤子・F・不二雄	平成元年（1989）	当館
写 真	「木造校舎の高岡工芸高校」			高岡工芸高等学校
冊 子	『高岡工芸高等学校生徒会誌 尚美』 第27号	高岡工芸高等学校	昭和63年（1988）	高岡工芸高等学校
印 刷 物	『工芸 PTA 通信』第18号	高岡工芸高等学校総 務部	昭和46年（1971）	高岡工芸高等学校
冊 子	『高岡工芸高等学校要覧 昭和26年度』	高岡工芸高等学校	昭和26年（1951）	高岡工芸高等学校
冊 子	『昭和27年3月 卒業記念』	高岡工芸高等学校	昭和27年（1952）	高岡工芸高等学校
書 籍	『私の見た戦後の高岡諸相』	島知一	平成7年（1995）	個人
雑 誌	『漫画少年』昭和25年4月号 「種まき奇談」	藤本弘 (藤子・F・不二雄)	昭和25年（1950）	個人
雑 誌	『キング』昭和26年7月号 「天狗昇トビキリ」	手塚不二雄名義 ※藤子不二雄 [Ⓐ] 氏と の共著	昭和26年（1951）	当館
雑 誌	『アサヒグラフ』昭和27年4月9日号 「遺作」	牛塚不二雄名義 ※藤子不二雄 [Ⓐ] 氏と の共著	昭和27年（1952）	当館
パ ネ ル	『北日本新聞』募集企画「北日本漫 画集団」入選初掲載作品・入選作品	製作：高志の国文学館		製作協力：北日本新聞社、 富山県立図書館
雑 誌	『少年少女冒険王』昭和27年12月号 「西部のどこかで」	足塚不二雄名義 ※藤子不二雄 [Ⓐ] 氏と の共著	昭和27年（1952）	当館
雑 誌	『少年少女冒険王』昭和28年7月号 「四万年漂流」	足塚不二雄名義 ※藤子不二雄 [Ⓐ] 氏と の共著	昭和28年（1953）	当館
雑 誌	『少年少女冒険王』昭和28年12月号 「暴風の奇術」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和28年（1953）	個人
雑 誌	『少女』昭和29年12月号 ゆりかちゃん「かえらないで!」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和29年（1954）	当館
雑 誌	『少女』昭和31年6月号 「光公子」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和31年（1956）	当館
書 籍	『少女』昭和32年3月号別冊附録 『マリちゃん』『雲の中のミカド』	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和32年（1957）	当館
雑 誌	『たのしい五年生』昭和34年7月号 ロケット五郎「雪男をまもれ」	文：久米みのる 絵：藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和34年（1959）	当館
雑 誌	『たのしい五年生』昭和35年4月号 ロケット＝ボーイ「太平洋××地点」	文：久米みのる 絵：藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和35年（1960）	当館
雑 誌	『たのしい三年生』昭和35年1月号 スーパー＝キャッティ「スーパー勉 強機」	文：久米みのる 絵：藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和35年（1960）	当館

種別	資料(作品)名	作者	年代	所蔵
書籍	『たのしい一年生』昭和35年9月号別冊附録 てぶくろてっちゃん「ごろちゃん」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和35年(1960)	当館
雑誌	『小学館の幼稚園』昭和36年8月号 チイちゃん「ボールとすいか」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄) 原作:高垣葵	昭和36年(1961)	当館
雑誌	『小学館の幼稚園』昭和36年1月号 ピロンちゃん「まだら仮面あらわる」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄) 原作:手塚治虫	昭和36年(1961)	当館
書籍	『小学一年生』昭和36年12月号別冊 附録 すすめピロン「サンタ博士」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和36年(1961)	当館
雑誌	『小学二年生』昭和36年11月号 ロケットけんちゃん「ガス魔人団」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和36年(1961)	当館
雑誌	『小学一年生』昭和37年9月号 すすめロボケット「ふしぎなくすり」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和37年(1962)	当館
原画	21エモン「宇宙の墓場から」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和44年(1969)	川崎市 藤子・F・不二雄 ミュージアム
雑誌	『週刊少年サンデー』昭和44年6号 21エモン「宇宙の墓場から」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和44年(1969)	当館
書籍	虫コミックス『21エモン』	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和46年(1971)初版	当館
書籍	希望コミックス『T・Pぼん』	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和54年(1979)初版	当館
雑誌	『月刊コミックトム』昭和55年9月号 T・Pぼん「平家の落人」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和55年(1980)	当館
雑誌	『週刊少年サンデー』昭和50年37号 「ひとりぼっちの宇宙戦争」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和50年(1975)	個人
雑誌	『月刊マンガ少年』昭和51年9月創刊号 「みどりの守り神」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和51年(1976)	当館
書籍	サンコミックス 『藤子不二雄 SF 短編集 宇宙人』	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和54年(1979)初版	当館
書籍	サンコミックス 『藤子不二雄 SF 短編集 創世日記』	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和55年(1980)初版	当館
書籍	ハヤカワ SF 文庫 『ジェイムスン教授シリーズ1 二重太陽系死の呼び声』	ニール・R・ジョーンズ・著、野田昌宏・訳 カバー、口絵、挿絵: 藤子・F・不二雄	昭和47年(1972)初版	当館
書籍	ハヤカワ SF 文庫 『ジェイムスン教授シリーズ2 放浪惑星骸骨の洞窟』	ニール・R・ジョーンズ・著、野田昌宏・訳 カバー、口絵、挿絵: 藤子・F・不二雄	昭和48年(1973)初版	当館
書籍	ハヤカワ SF 文庫 『ジェイムスン教授シリーズ3 惑星ゾルの王女』	ニール・R・ジョーンズ・著、野田昌宏・訳 カバー、口絵、挿絵: 藤子・F・不二雄	昭和49年(1974)初版	当館
書籍	ハヤカワ SF 文庫 『ジェイムスン教授シリーズ4 双子惑星恐怖の遠心宇宙船』	ニール・R・ジョーンズ・著、野田昌宏・訳 カバー、口絵、挿絵: 藤子・F・不二雄	昭和52年(1977)初版	当館

種別	資料(作品)名	作者	年代	所蔵
書籍	ハヤカワ SF 文庫 『宇宙兵ブルース』	ハリイ・ハリソン・著、 浅倉久志・訳 カバー、口絵、挿絵： 藤子・F・不二雄	昭和52年(1977)初版	当館
雑誌	『ビッグコミック』 昭和44年10月10日号 「ミノタウロスの皿」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和44年(1969)	当館
雑誌	『別冊問題小説』昭和52年冬季特別号 「カンビュセスの籤」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和52年(1977)	当館
書籍	ゴールデン・コミックス 『異色短編集』	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和52年(1977)初版	当館
雑誌	『週刊少年サンデー』昭和42年21号 パーマン「怪人千面相」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和42年(1967)	当館
書籍	ホームコミックス『パーマン』	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和51年(1976)初版	当館
雑誌	『幼稚園』昭和43年12月号 ウメ星デンカ「大きくなる光」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和43年(1968)	当館
書籍	虫コミックス『ウメ星デンカ』	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和46年(1971)初版	当館
雑誌	『小学一年生』昭和57年4月号 ドラえもん「かるがるつりざお」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和57年(1982)	当館
雑誌	『コロコロコミック』昭和54年11号 ドラえもん「筋肉コントローラー」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和54年(1979)	当館
印刷物	高岡駅米寿記念入場券	発行:金沢鉄道管理局、 高岡駅 絵:藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和60年(1985)	個人
雑誌	『コロコロコミック』昭和55年1号 大長編ドラえもん「のび太と恐竜」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和55年(1980)	当館
書籍	コロコロコミック特別付録『ドラえもん 44.5巻 ガラパ星から来た男』	藤子・F・不二雄	平成6年(1994)	個人
雑誌	『マンガくん』昭和52年12号 エスパー魔美「魔女・魔美?」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和52年(1977)	当館
書籍	マンガくんコミックス 『エスパー魔美』	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和53年(1978)初版	当館
雑誌	『こどもの光』昭和49年11巻5号 キテレツ大百科「脱時機でのんびり」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和49年(1974)	当館
原画	「かげろう剣士」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和33年(1958)	個人
原画	「山びこ剣士」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和31年(1956)	個人
原画	パーマン「パーマンやめたい」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和42年(1967)	川崎市 藤子・F・不二雄 ミュージアム
原画	「ひとりぼっちの宇宙戦争」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和50年(1975)	川崎市 藤子・F・不二雄 ミュージアム
原画	「ミノタウロスの皿」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和44年(1969)	川崎市 藤子・F・不二雄 ミュージアム
原画	エスパー魔美「魔女・魔美?」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和52年(1977)	川崎市 藤子・F・不二雄 ミュージアム
原画	ドラえもん「タンポポ空を行く」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和54年(1979)	川崎市 藤子・F・不二雄 ミュージアム

種別	資料(作品)名	作者	年代	所蔵
原画	大長編ドラえもん 「のび太と鉄人兵団」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和60年(1985)	川崎市 藤子・F・不二雄 ミュージアム
原画	高岡地域地場産業センター 小ホール 緞帳の切り絵原画	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和57年(1982)頃	高岡信用金庫
立体物	高岡地域地場産業センター 小ホール 緞帳		昭和58年(1983)	高岡地域地場産業セン ター
書籍	『UTOPIA 最後の世界大戦』	足塚不二雄名義 ※藤子不二雄 [Ⓐ] 氏との 共著	昭和28年(1953)	個人
書籍	『漫画王』昭和28年12月号別冊附録 「三人きょうだいとにげん砲弾」	足塚不二雄名義 ※藤子不二雄 [Ⓐ] 氏との 共著	昭和28年(1953)	個人
書籍	『少女クラブ』昭和30年お正月増大号 別冊附録「バラとゆびわ」	藤子不二雄(藤子・F・ 不二雄)※藤子不二雄 [Ⓐ] 氏との共著	昭和30年(1955)	個人
書籍	『幼年クラブ』昭和30年5月号別冊附 録「おやゆびひめ」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和30年(1955)	個人
書籍	『漫画王』昭和31年2月号別冊附録 「幽霊ロケット」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和31年(1956)	個人
書籍	『漫画王』昭和31年6月号別冊附録 「竹光一刀流」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和31年(1956)	個人
書籍	『漫画王』昭和31年8月号別冊附録 「山びこ剣士」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和31年(1956)	個人
書籍	『漫画王』昭和31年9月号別冊附録 「山びこ剣士」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和31年(1956)	個人
書籍	『幼年クラブ』昭和32年4月号別冊 附録「しゃっくり丸」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和32年(1957)	個人
書籍	『幼年クラブ』昭和32年9月号別冊 附録「しゃっくり丸」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和32年(1957)	個人
書籍	『漫画王』昭和32年5月号別冊附録 「海の快剣士」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和32年(1957)	個人
書籍	『たのしい三年生』昭和32年6月号別 冊附録「ユリシーズ」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和32年(1957)	個人
書籍	『漫画王』昭和32年8月号別冊附録 「白魔洞の怪人」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和32年(1957)	個人
書籍	『漫画王』昭和32年11月号別冊附録 「電光豆剣士」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和32年(1957)	個人
書籍	『たのしい三年生』昭和33年1月号別 冊附録「タップタップのぼうけん」	藤子不二雄(藤子・F・ 不二雄)※藤子不二雄 [Ⓐ] 氏との共著	昭和33年(1958)	個人
書籍	『漫画王』昭和33年3月号別冊附録 「宇宙冒険児」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和33年(1958)	個人
書籍	『漫画王』昭和33年5月号別冊附録 「かげろう剣士」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和33年(1958)	個人
書籍	『たのしい四年生』昭和33年9月号 別冊附録「少年船長」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和33年(1958)	個人
書籍	『たのしい四年生』昭和33年11月号 別冊附録 「タップタップの世界めぐり」	文：久米みのる 絵：藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和33年(1958)	個人

種別	資料(作品)名	作者	年代	所蔵
書籍	『たのしい三年生』昭和33年12月号別冊附録 「タトルくんのぼうけん」	文：久米みのる 絵：藤子不二雄 (藤子・F・不二雄) ※藤子不二雄 [Ⓐ] 氏との共著	昭和33年(1958)	個人
書籍	『たのしい四年生』昭和34年新年特大号別冊附録 「タップタップの世界めぐり」	文：久米みのる 絵：藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和34年(1959)	個人
書籍	『漫画王』昭和34年2月号別冊附録 「あのロボットをうて」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和34年(1959)	個人
書籍	『たのしい五年生』昭和34年8月号別冊附録 ロケット五郎「雪男をまもれ」	文：久米みのる 絵：藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和34年(1959)	個人
書籍	『たのしい一年生』昭和34年9月号別冊附録 「やじさんきたさん」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和34年(1959)	個人
書籍	『たのしい一年生』昭和35年5月号別冊附録 てぶくろてっちゃん「おり紙動物園」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和35年(1960)	個人
書籍	『小学一年生』昭和35年7月号別冊附録 ろけっとけんちゃん「赤い星の少女」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和35年(1960)	個人
書籍	『たのしい三年生』昭和36年6月号別冊附録 かけろセントール「ゆうれい峠」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和36年(1961)	個人
書籍	『小学一年生』昭和36年6月号別冊附録 すすめびろん「赤いクジラ」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和36年(1961)	個人
書籍	『小学二年生』昭和37年9月号別冊附録 ロケットGメン「レムリア王国を救え!」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和37年(1962)	個人
書籍	『小学一年生』昭和37年6月号別冊附録 すすめろぼけっと「あばれだした銅像」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和37年(1962)	個人
書籍	『小学一年生』昭和38年10月号別冊附録 とびだせみくろ「サーカス戦争」	藤子不二雄 (藤子・F・不二雄)	昭和38年(1963)	個人

2. 資料概況

□資料数

		印刷物 (書籍・雑誌・冊子等)	自筆資料				美術品	写真	映像・音響資料	調度品・愛用品	その他	計
			原稿	原画	書簡	色紙・短冊・軸・一枚もの、その他						
～H23年度	購入	6,526	27	4	31	17		5	178		105	6,893
	寄贈	14,994	76	59	711	1,029	72	77	48	15	104	17,185
	製作	11	1			1					1	14
	小計 (A)	21,531	104	63	742	1,047	72	82	226	15	210	24,092
H24年度	購入	3,458					2		9		1	3,470
	寄贈	3,050	9		16	15	24	24	4	2	12	3,156
	製作	1	7	9	3	8	1	1			2	32
	小計 (B)	6,509	16	9	19	23	27	25	13	2	15	6,658
H25年度	購入	1,053	6		9	5	1		5		2	1,081
	寄贈	712	134		16	16	12	1	9	1	20	921
	製作			1	3	2	1					7
	小計 (C)	1,765	140	1	28	23	14	1	14	1	22	2,009
H23+H24+H25合計(A)+(B)+(C)		29,805	260	73	789	1,093	113	108	253	18	247	32,759

□おもな新収蔵資料

寄 贈

作者等	資料名
高島 高	『詩が光を生むのだ 高島高詩集全集』(桂書房、平成25年、復刻版4巻セット)
角川 照子	句稿「越の藤」(400字詰原稿用紙2枚、全21句)
岩城 正春	歌稿「歌集 稲供養」(400字詰原稿用紙二つ折仮綴、316頁、昭和34年12月20日)
岩城 正春	歌稿「歌集 馬と共に」(400字詰原稿用紙二つ折仮綴、127頁、大正11年～昭和12年までの歌を収録)
能坂 利雄	原稿「俱利伽羅の牛」(200字詰原稿用紙120枚)
角川 眞弓(辺見じゅん)	個人宛封書(原稿用紙2枚、昭和32年8月16日消印)
辺見じゅん	色紙「花々に眼のある夜は晩年の父あらはれて川渉りゆく」
金尾梅の門	短冊「かひもちのあまきをふゝみ癒ゆるなり」
角川 源義	一枚物「面をさめ面の痩せゆく雪の燭」
立案者：大井 冷光、 製作者：畑 正吉	佐伯有頼少年像(銅製、大正時代頃)

購 入

作者等	資料名
康工編	『俳諧百一集』(橘屋治兵衛、明和2年刊)
足塚不二雄 ほか	雑誌『少年少女冒険王』第4巻第12号(昭和27年12月、足塚不二雄「西部のどこかで」収録)
脚本・構成：瀧口 修造	台本『美術映画 北斎』(日本美術映画研究会企画)
渡辺 順三	草稿「子規・左千夫・節の歌」(200字詰原稿用紙32枚)
野村 尚吾	草稿「『岬の気』について」(400字詰原稿用紙2枚)
新田 次郎	草稿「二つの景勝地」(400字詰原稿用紙3枚)
田中 冬二	長谷川巳之吉宛封書(便箋2枚、昭和42年10月3日作成)
三浦孝之助	上田保宛葉書(昭和31年12月29日消印)
沢木 欣一	色紙「風流を語りて老いずはぜ紅葉」(墨筆)
前田 普羅	短冊「山桃の日かげと知らで通りけり」(墨筆)
手塚 雄二	越中万葉絵画「雨晴」(紙本彩色・額装、50号)

3. 教育・普及事業

平成25年度は、前年度に引き続き、企画展と連動した講演会、映画上映会、さらには、ライブラリーコーナーなどを活用した音楽イベントや導入展示の壁面を利用したパネル展など、多彩なイベントを実施した。また、新たに文学講座に「ゆかりの文学者シリーズ」を追加し、富山県ゆかりの作家・作品への理解を深めた。

□春の万葉集朗唱の夕べ

開催日／平成25年 4月 7日 回

会 場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

参加者／238名

春の花を詠んだ歌を朗唱する「春の万葉集朗唱の夕べ」を開催した。第一部では、富山県洋舞協会によるダンス、富山交声合唱団による万葉歌の合唱が行われたあと、ゲスト朗唱として、県内放送局のアナウンサーによる朗唱が行われた。その後の一般朗唱では、約50名の参加者が、万葉の衣裳に身を包み、「春の花」を詠んだ万葉歌を朗唱した。富山県日本舞踊協会の美しい舞で幕を開けた第二部では、特別招待者として、現代歌壇を代表する歌人の一人である小島ゆかり氏に朗唱と解説をしていただいた。小島氏は、大伴家持の「東風（あゆのかぜ）いたく吹くらし 奈呉の海人の

釣する小舟 漕ぎ隠る見ゆ（巻17-4017）」を挙げ、「東風」という方言を和歌に取り入れた家持の斬新なセンスに感銘を受けたと話された。



□写真展「入江泰吉と奈良を愛した文士たち」

開催日／平成25年 4月10日 回～ 5月13日 回

会 場／高志の国文学館エントランスロビー

入江泰吉記念奈良市写真美術館の協力のもと、高岡市万葉歴史館との連携企画として、写真展「入江泰吉と奈良を愛した文士たち」を開催した。

写真家の入江泰吉は、奈良大和路の仏像、風景、伝統行事を中心に撮影し、晩年は「万葉の花」の撮影

に専念した。当館では「文学」の視点から、正岡子規、志賀直哉、堀辰雄などの奈良を愛した文士たちの言葉とともに入江作品を紹介した。

同時開催の高岡市万葉歴史館では、「万葉集」の視点から、「入江泰吉の万葉風景 よみがえる万葉のこころ」と題して入江泰吉がとらえた大和の万葉風景を紹介した。



□トークイベント「梨子ちゃん・わこちゃんの『短歌って おもしろいっ!』」

開催日／平成25年 8月31日 日

会 場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

参加者／85名

これまで全国的な短歌大会や新聞の歌壇等で入選を重ねてきた富山市在住の注目の歌人姉妹、松田梨子さん（中3）・わこさん（小6）によるトークイベントを開催した。梨子さんは、短歌の魅力について、「心に残ったことを“31文字の入れ物”にしまうところ」と語った。途中からは中西館長も加わり、五・七のリズムが生み出す魅力などについて語りあった。



□万葉タンカービレ

開催日／8月31日 日～9月1日 日

①吟行（雨晴海岸～富岩運河環水公園～天湖森）

②中西館長講演会「家持を育てた風土」

③トークセッション「私の好きな短歌」

出 演／中西 進、本上まなみ、穂村 弘、黒瀬珂瀾、
石川 美南

会 場／サンシップとやま

参加者／179名

万葉ゆかりの地である富山から新たな短歌文化を発信することを目的として、「万葉タンカービレ」を開催した（北日本新聞社との共催）。全国から参加した学生約30名が富山の自然や風土を題材に作歌したほか、中西館長による講演や、女優の本上まなみ氏と人気歌人らによるトークセッションを開催した。



□シュトゥットガルト弦楽六重奏団とフルートの夕べ

開催日／平成25年 9月9日 日

会 場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

出 演／シュトゥットガルト弦楽六重奏団、
小出信也（フルート奏者）

参加者／145名

開館一周年にあわせ、「シュトゥットガルト弦楽六重奏団とフルートの夕べ」を開催した（富山県文化振興財団との共催）。この演奏会では、200年間も演奏されていないというボッケリーニの弦楽六重奏曲二長調が日本で初めて演奏されたほか、彼らの長年の盟友、元NHK交響楽団首席フルート奏者の小出信也氏との共演も実現した。



□観月の会

開催日／平成25年9月19日(困)

会場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

参加者／215名

中秋の名月にあわせ、「観月の会」を開催した。富山県華道連合会によるいけ花展示で彩られた会場で、チェコ・ブラハ芸術大学舞踊学科の研究生による特別公演を皮切りに、串田淑子氏、小澤真琴氏、金森敏子氏による月をテーマにした歌曲の演奏や藤間松山氏による日本舞踊など様々な美の競演が行われた。富山県歌人連盟名誉会長の久泉迪雄氏による月を詠んだ歌の解説も行われた。



□山内マリコ氏トークショー

開催日／平成25年9月16日(日)

会場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

参加者／90名

富山市出身の若手作家・山内マリコ氏を招き、トークショーとサイン会を開催した。山内氏は、平成20年に新潮社主催の「女による女のためのR-18文学賞」読者賞を受賞し、平成23年8月に『ここは退屈迎えに来て』(幻冬舎)で本格デビュー。地方都市に暮らす若い女性の希望や寂しさを描き、高い評価を得た。山内氏は、「自我を確立しにくい地方都市で若い女の子がどうやって大人になっていくのかを描きたかった」と着想について語った。トークショー終了後には、サイン会が行われ、館内レストラン「ラ・ベットラ・ダ・

オチアイ」で、高志の国文学館友の会主催による特別企画「女子会」も開催された。



□親子のための朗読会

開催日／平成25年10月12日(日)

会場／高志の国文学館研修室101

参加者／51名

“ことのは語り”として子どもに語りかけることの大切さを全国各地で伝えている木村まさ子氏による「親子のための朗読会」を開催した。木村氏は『いのちのまつり』、『おやすみ ぼく』などの絵本の朗読をとおして、「自分を愛することの大切さ」などについて語った。



□朗読と音楽の夕べ

8月から10月にかけて、第二、第四金曜の夜に、県内アナウンサーによる朗読と音楽演奏を組み合わせたイベント「朗読と音楽の夕べ」を開催した。昨年度は、「朗読と弦楽の夕べ」として開催したものであるが、今回は、ヴァイオリンやチェロに加え、ピアノや民謡、篠笛など多彩な音楽を取り入れて開催した。

チューリップテレビの鎌田香奈アナウンサーによる高橋治の『風の盆恋歌』の朗読では、富山県民謡越中八尾おわら保存会による本場の演奏と踊りが披露された。また、NHK富山放送局の中條誠子アナウンサーによる辺見じゅんの『ダモイ遙かに』の朗読では、作曲家でピアニストの冬野ユミ氏が、この作品のために作った曲を自ら演奏した。朗読に美しくも切ないピ

ノの音色が調和し、涙を流しながら聴き入る人の姿も見えた。最後に、辺見じゅんのインタビューを録音した肉声テープも流された。



開催日	朗 読 者 (所属) 演 奏 者 (楽器)	作 品	観覧者数
8月9日(金)	田中 千佳 (富山エフエム放送) 岡野 宏映 (ピアノ)	細田守『おおかみこどもの雨と雪』	83
8月23日(金)	松平 寛未 (北日本放送) 佐々木ゆき子 (ピアノ) 別本 裕子 (ヴァイオリン)	木崎さと子『青桐』	90
9月13日(金)	鎌田 香奈 (チューリップテレビ) 富山県民謡越中八尾おわら保存会	高橋治『風の盆恋歌』	156
9月27日(金)	中條 誠子 (NHK 富山放送局) 冬野 ユミ (ピアノ)	辺見じゅん『ダモイ遙かに』	207
10月11日(金)	鎌田 紗綾 (富山テレビ放送) 池田 洋子 (チェロ)	青木新門『納棺夫日記』	85
10月25日(金)	廣川奈美子 (フリーアナウンサー) 羽岡 優子 (篠笛)	小泉八雲『和解』他	88

□高校生による朗読会

開催日／平成26年1月19日回

会 場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

出 演／富山県立砺波高等学校

参加者／62名

高校生に日頃の練習の成果を発表する場を提供するとともに、幅広い世代の方に朗読の魅力を感じていただくため、「高校生による朗読会」を初めて開催した。富山県ゆかりの作品として、青木新門『つららの坊や』をはじめ、辺見じゅん『花子のくにの歳時記』(抜粋)、宮本輝『天の夜曲』(抜粋)を朗読したほか、芥川龍之介『トロッコ』を朗読し、聴衆を魅了した。



□平成25年度 高志の国文学館文学講座

平成25年度の文学講座は、「大学連携シリーズ」と「ゆかりの文学者シリーズ（前期・後期）」を開催した。

大学連携シリーズでは、県内大学の教授陣により、江戸期富山の漢学世界をはじめ、法華経曼荼羅の絵解き、源氏物語、川端康成の『掌の小説』と、幅広い分野に関する講座が実現した。

ゆかりの文学者シリーズでは、富山県ゆかりの文

学に造詣の深い八木光昭氏（聖徳大学教授）、立野幸雄氏（射水市大島絵本館長）を講師に、堀田善衛や高島 高などの講座を開催した。また、詩人・美術評論家の瀧口修造の遺品整理を行った慶應義塾大学名誉教授の田中淳一氏、ラフカディオ・ハーン研究の第一人者で、英文学者・佐伯彰一氏とも親交のある東京大学名誉教授の平川祐弘氏を講師として招聘した。

大学連携シリーズ

開催日	講師	演題	受講者数
6月30日(日)	磯部 祐子氏 (富山大学人文学部教授)	花開く江戸期富山の漢学世界 - 学問と文学的遊戯と -	63
7月14日(日)	原口 志津子氏 (富山県立大学教授)	絵解きと曼荼羅	75
7月28日(日)	呉羽 長氏 (富山大学人文学部教授)	『源氏物語』を読みとる一視点 - 紫上の生に着目して -	60
8月4日(日)	吉田 泉氏 (高岡法科大学教授)	川端康成 - 『掌の小説』の美と怪奇 (その2)	85

ゆかりの文学者シリーズ：前期

開催日	講師	演題	受講者数
9月29日(日)	八木 光昭氏 (聖徳大学人文学部教授)	堀田善衛文学、その読解の「ツボ」	50
10月27日(日)	田中 淳一氏 (慶應義塾大学名誉教授)	瀧口修造 詩人の言葉と造形	55
11月17日(日)	立野 幸雄氏 (射水市大島絵本館長)	ロマンを追った詩人 - 高島 高と田中冬二 -	51

ゆかりの文学者シリーズ：後期

12月1日(日)	平川 祐弘氏 (東京大学名誉教授)	ラフカディオ・ハーンと佐伯彰一 - 神道の国日本についての二人の見方	98
12月8日(日)	八木 光昭氏	在米日系移民文学の先駆者 翁 久允	56
1月19日(日)	立野 幸雄氏	稀代のストーリーテラー 暁 文兵	43

□映画上映会

企画展の開催にあわせ、関連映画の上映会を行った。

開催日	作品名	会場	観覧者数
4月20日(土)	サマーウォーズ	富山県教育文化会館	210
5月3日(金・祝)	時をかける少女	富山県教育文化会館	240
5月12日(日)	おおかみこどもの雨と雪 (午前・午後2回上映)	富山県教育文化会館	440 [午前]・540 [午後]
8月14日(水)	男たちの大和/YAMATO (午前・午後2回上映)	富山県教育文化会館	140 [午前]・103 [午後]

□高志プロジェクト

平成25年度より、富山県ゆかりの文学や郷土の研究を行うグループを公募・選考し、優れた団体に奨励金を交付する「高志プロジェクト」が始動した。これは、富山県の風土や歴史、文化をより深く調査・研究し、発信することにより、郷土の文化や魅力を再認識し、次世代へ継承することを目的としたもので、初年度には以下の3団体が選ばれた。



研究テーマ	団体名 代表者(職)
「堀田善衛の北陸、北陸の堀田善衛」	堀田善衛の会 丸山 圭一（金沢大学名誉教授）
「須山ユキエにおける<雪>へのあこがれ -越中万葉に惹かれた女性移住者のまなざし-」	「文章サロン」の会 萩野 恭一（富山短期大学非常勤講師）
「富山の女性作家の調査研究とデータベースの構築」	富山女性文学研究会 金子 幸代（富山大学人文学部教授）

□置県130年記念事業

①高志の国文学館の無料開放

開催日／平成25年 5月9日 困～12日 回

来館者／7,057名（4日間）

②ホームカミングデー

開催日／平成25年 8月17日 田

会 場／富山県教育文化会館、高志の国文学館

来館者／1,916名

平成25年（2013）は、明治16年（1883）に富山県が置かれてから130年目の節目の年にあたる。これを機に制定された「県民ふるさとの日を定める条例」に基づき、高志の国文学館をはじめとする県立文化施設の無料開放を行った。また、富山県出身者がふるさとに集うホームカミングデーの関連イベントとして、県警音楽隊の演奏、富山の祭り公演、縁日などを開催した。



高志の国文学館の無料開放



ホームカミングデー

4. 高志の国文学館友の会

高志の国文学館友の会は、文学館の開館に先立つ平成24年6月18日、「文学館の事業に基盤をおいて、ふるさと文学を中心とする幅広い芸術文化に関する活動を通して、多くの人々が生涯学習の機会を持ち、会員相互に親睦を深めるとともに、文学館と連携し、文学館の活動を広く支援していくことを目的」として設立された。

平成25年度は、開館一周年記念事業として開催された朗読劇「天の夕顔」や「シュトゥットガルト弦楽六重奏団とフルートの夕べ」の共催をはじめ、文学館が主催する各種イベントや講演会等への優先参加などを行った。

自主事業としては、研修旅行「世田谷文学館と東京スカイツリー、江戸東京博物館見学の旅」、富山県出身の作家・山内マリコ氏によるトークショー＆「女子会」、昨年度に引き続きラ・ベトラ・ダ・オチアイの落合務シェフの料理＆トークショーなどを開催した。

会員数は、969名となった。

会員数

一般会員	830	学生会員	13
法人会員	19		
5年会員（個人）	78	5年会員（法人）	2
賛助会員（個人）	26	賛助会員（法人）	1

会費

一般会員	2,000円
学生会員	1,000円
法人会員	20,000円
5年会員（個）	10,000円
5年会員（法）	100,000円
賛助会員	一口 10,000円

特典

- ・文学館ニュースや各種行事案内の配布
- ・文学館及び友の会主催行事への優先参加
- ・文学館が発行する図録等の割引購入
- ・文学館内レストランの飲み物代優待
- ・文学館内レストランのランチ予約優待

平成25年度事業

- ・各種行事への優先参加

- ・落合シェフ料理＆トークショー

9月21日（土） 参加者85名

11月2日（土） 参加者86名

1月18日（土） 参加者100名

- ・研修旅行「世田谷文学館と東京スカイツリー、江戸東京博物館見学の旅」

11月8日（金）～9日（土） 参加者29名

世田谷文学館「幸田文」展を見学、東京スカイツリー、江戸東京博物館を訪問



- ・山内マリコトークショー＆「女子会」

9月16日（月・祝）

【トークショー】

参加者 90名 ライブラリーコーナー

【女子会】

参加者 18名 ラ・ベトラ・ダ・オチアイ



理事会

5月30日（木）

Ⅲ 管理・運営

1. 利用状況

(1)入館者数・観覧者数

区分	会期	日数 (a)	入館者	企画展 観覧者	常設展 観覧者	観覧者計 (b)	1日 あたり (b/a)
おおかみこどもの雨と雪 - 大自然に生きる 母と子の物語 -	平成25年4月1日～6月3日 (平成25年3月20日～6月3日)	56 (67)	32,563 (38,176)	12,848 (14,910)	13,371 (15,297)	26,219 (30,207)	468 (451)
立山曼荼羅を文学する	平成25年7月7日～7月29日	20	8,308	2,286	2,482	4,768	238
辺見じゅんの世界	平成25年8月10日～11月11日	81	36,238	4,711	6,223	10,934	135
「世界のムナカタ」を育 んだ文学と民藝 - 棟方志功の感応力	平成25年11月17日～ 平成26年2月17日	72	25,010	3,834	3,675	7,509	104
まんが家 藤子・F・不二雄の「SF」 (すこし・ふしぎ)	平成26年3月20日～3月31日 (平成26年3月20日～6月2日)	10 (65)	4,047 (30,393)	1,338 (10,021)	1,234 (9,675)	2,572 (19,696)	257 (303)
常設展のみ		68	20,304		3,446	3,446	51
合計		307	126,470	25,017	30,431	55,448	181
休館日		58					

開館日数／307日 うち 臨時開館3日（4月30日、8月13日、9月3日）

休館日数／58日

開館延長／7日 展示部門を18時まで延長

開館時間／9時30分から17時まで（展示室への入館は16時30分まで）

休館日／火曜日（祝日を除く）、祝日の翌日、年末年始（12月28日から1月4日）

※年度をまたぐ企画展については25年度分の数値（上段）と全会期中の数値（下段）を併記

(2)研修室の利用状況

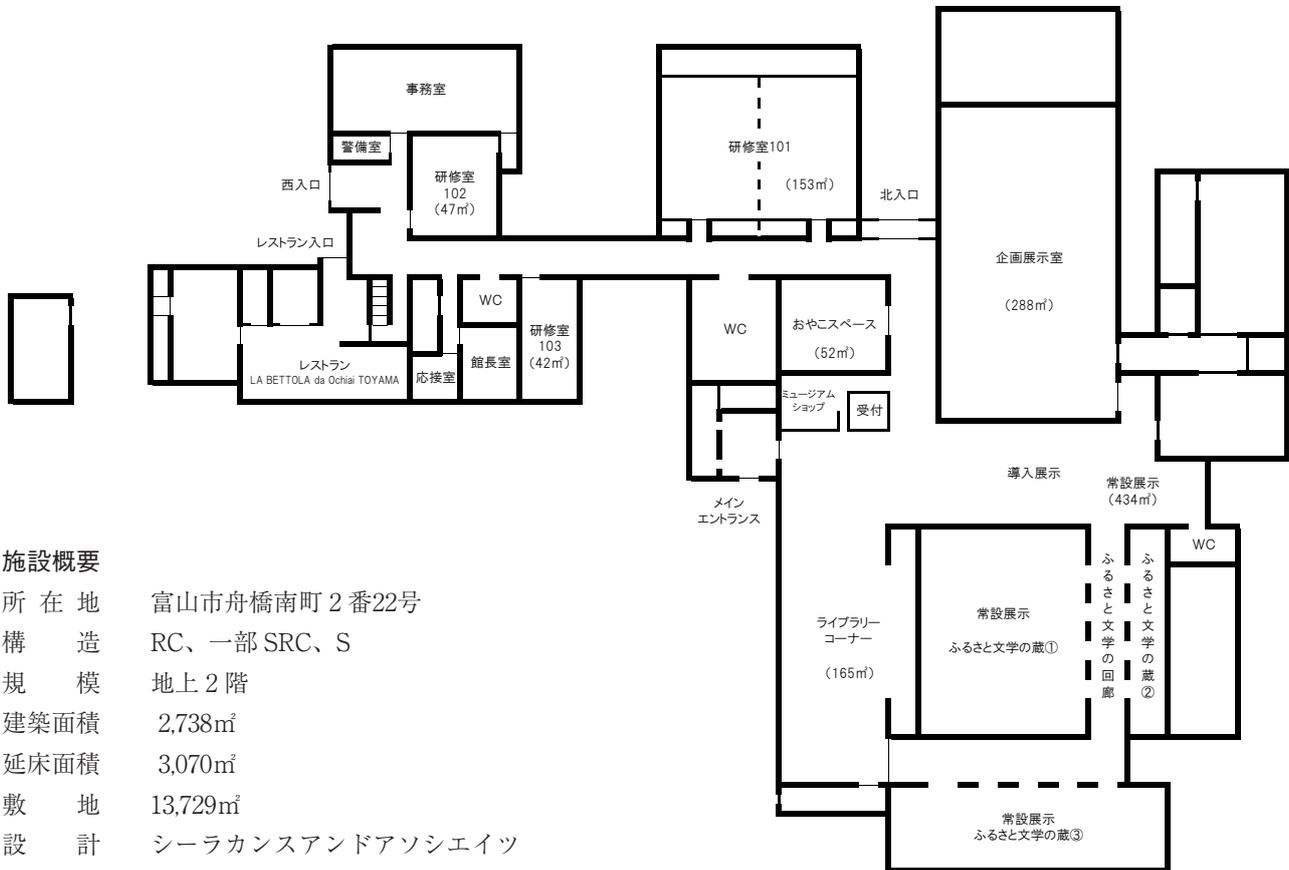
年	月	開館 日数	休館 日数	研修室101		研修室102		研修室103	
				件数	人数	件数	人数	件数	人数
25	4月	26	4	12	315	8	47	34	315
	5月	27	4	17	674	19	79	24	200
	6月	26	4	13	515	17	113	34	303
	7月	26	5	13	438	12	65	33	260
	8月	28	3	15	570	24	104	31	248
	9月	27	3	32	727	27	206	39	360
	10月	26	5	32	963	23	90	44	331
	11月	25	5	21	666	26	107	32	258
	12月	23	8	8	194	14	68	37	281
26	1月	23	8	11	348	14	93	32	228
	2月	24	4	9	346	9	60	39	327
	3月	26	5	18	369	16	106	46	342
合 計		307	58	201件	6,125人	209件	1,138人	425件	3,453人

年	月	研修室201		研修室202		和 室		合 計	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
25	4月	23	83	12	41	13	38	102	839
	5月	23	101	4	14	6	27	93	1,095
	6月	19	87	2	12	4	13	89	1,043
	7月	19	78	5	16	12	48	94	905
	8月	21	86	7	17	2	8	100	1,033
	9月	33	133	11	32	19	56	161	1,514
	10月	29	110	11	36	10	32	149	1,562
	11月	25	89	6	22	7	30	117	1,172
	12月	30	106	11	27	12	38	112	714
26	1月	24	90	7	21	5	26	93	806
	2月	26	108	9	34	5	35	97	910
	3月	22	105	21	51	7	26	130	999
合 計		294件	1,176人	106件	323人	102件	377人	1,337件	12,592人

(3)年度別利用状況

区 分	開館日数	入館者	企画展 観覧者	常設展 観覧者	観覧者 合 計	1 日 当たり	研修室利用	
							件数	人数
平成24年度	222	121,211	21,653	30,668	52,321	236	1,364	11,807
平成25年度	307	126,470	25,017	30,431	55,448	181	1,337	12,592
合 計	529	247,681人	46,670人	61,099人	107,769人	204人	2,701件	24,399人

2. 施設の概要



施設概要

所在地	富山市舟橋南町2番22号
構造	RC、一部SRC、S
規模	地上2階
建築面積	2,738㎡
延床面積	3,070㎡
敷地	13,729㎡
設計	シーラカンスアンドアソシエイツ
工事施工	日本海建興、酒井建設、辻建設、乃村工藝社 ほか
総工費	1,947,135,080円
工期	起工 平成23年7月4日 竣工 平成24年7月3日

3. 機構

平成26年3月31日現在



□指定管理者の指定状況

平成24年7月～平成26年度

(公財)富山県文化振興財団

□職員名簿

職	氏名	備考
館長	中西 進	
副館長	笹林 一樹	
主幹	橋本 隆	本務 文化振興課
事業課長	山形 隆	
主幹	中川美彩緒	学芸員、本務 水墨美術館学芸課長
副主幹	福江 充	学芸員
係長	川湖 貴	
主任	綿引 香織	学芸員
主任	大川原竜一	学芸員
主任	山崎 就弘	本務 文化振興課
主任	大蔵 良輔	
施設管理課長	亀谷 哲史	
マネージャー	富岡 准二	
嘱託	魚屋美智乃	

4. 組織

平成26年3月31日現在

高志の国文学館運営委員会委員

氏名	役職等
生田 美秋	世田谷文学館学芸部長
高木 繁雄 ※	(株)北陸銀行特別顧問
多田 慎一	第一物産(株)会長
飛田 久子	富山県婦人会理事
中井 敏郎	東亜薬品(株)代表取締役社長
平田 純	(社)富山県芸術文化協会名誉会長、英文学者
マリ・クリスティーン	富山大学特別研究員
八木 光昭	聖徳大学教授、元洗足学園魚津短期大学教授
藪 道子	公募委員、富山県 PTA 連合会副会長
米田 憲三	富山県歌人連盟会長

※委員長

ふるさと文学資料選定・評価委員会委員

①書籍等

氏名	役職等
八木 光昭	聖徳大学教授、元洗足学園魚津短期大学教授
晒谷 和子	高岡市立博物館長
伊東 眞	富山県立図書館長
久泉 迪雄	日本短歌協会副理事長、富山県歌人連盟名誉会長
河原 桂介	とやま同人誌会会長

②絵画

氏名	役職等
大熊 敏之	富山大学芸術文化学部准教授
島 敦彦	国立国際美術館学芸課長
福永 治	国立新美術館副館長

高志の国文学館アドバイザー

氏名	役職等
篠田 正浩	映画監督
滝田洋二郎	映画監督
藤子不二雄 [Ⓐ]	漫画家

IV 資 料

沿革

年 月 日	事 項
平成20年 6月 2日	ふるさと文学魅力推進検討委員会を設置
10月	ふるさと文学の振興に関する県民アンケート調査を実施
平成21年 2月 3日	ふるさと文学魅力推進検討委員会報告「ふるさと文学の振興に関する報告書」
6月12日	ふるさと文学資料評価・活用委員会を設置
11月10日	知事公館を廃止し、文学館の建設候補地とすることを発表
平成22年 2月 4日	ふるさと文学資料評価・活用委員会報告 「ふるさと文学の拠点施設の整備・運営にかかる基本的な考え方」
3月31日	「富山県ふるさと文学館（仮称）整備基本方針」を策定
3月31日	富山県知事公館廃止
5月17日	富山県ふるさと文学館（仮称）開設準備委員会を設置
11月19日	館長予定者として辺見じゅん氏が顧問に就任 アドバイザーとして中西進氏、篠田正浩氏、藤子不二雄 [Ⓐ] 氏、滝田洋二郎氏が就任
平成23年 4月 5日	公募したレストラン部門に「ラ・ベットラ・ダ・オチアイ」の出店が決定
7月 4日	建築工事に着手
9月 5日	名称を「高志の国文学館」に決定
9月21日	辺見じゅん顧問死去
9月28日	高志の国文学館条例を一部施行
11月30日	高志の国文学館指定管理者の募集開始
12月 1日	中西進アドバイザーが館長に就任
平成24年 1月 4日	高志の国文学館開館日を7月6日に決定
1月21日	高志の国文学館ミーティングを開催
3月23日	高志の国文学館の指定管理者に（公財）富山県文化振興財団を指定
7月 3日	高志の国文学館建築工事竣工
7月 6日	高志の国文学館条例一部改正
7月 6日	開館
7月 6日	開館記念展「大伴家持と越中万葉一風土とこだまする家持の心」開催
7月 8日	開館記念講演会「日本文化の底流」五木寛之氏
7月15日	入館者1万人突破
8月 8日	秋篠宮同妃両殿下並びに佳子内親王殿下ご来館
9月23日	辺見じゅん先生の思い出を語る会 開催
12月 8日	開館記念展Ⅱ「富山が育んだ少年時代－小説・漫画・映画が描く疎開少年の長い道－」開催
平成25年 2月 3日	入館者10万人突破
3月20日	特別展「おおかみこどもの雨と雪－大自然に生きる母と子の物語－」開催
4月10日	写真展「入江泰吉と奈良を愛した文士たち」開催
5月26日	入館者15万人達成
7月 7日	特別展「立山曼荼羅を文学する」開催 開館一周年記念事業 朗読劇「天の夕顔」開催 平成25年度「高志プロジェクト」優秀団体の発表
8月10日	開館一周年特別展「辺見じゅんの世界」開催
9月19日	「観月の会」開催
10月 5日	日本の美を考える秋の集い 開催
10月10日	入館者20万人達成
10月18日	高円宮妃殿下ご来館
11月 3日	中西進館長 文化勲章受章
11月17日	企画展「『世界のムナカタ』を育んだ文学と民藝－棟方志功の感応力」開催
12月14日	中西進館長 富山県特別栄誉賞贈呈式・文化勲章受章記念講演会 開催
平成26年 3月20日	企画展「まんが家 藤子・F・不二雄の「SF」（すこし・ふしぎ）」開催

V 法 令

高志の国文学館条例

平成23年9月28日

富山県条例第41号

改正 平成24年6月29日条例第38号

高志の国文学館条例を公布する。

高志の国文学館条例

(趣旨)

第1条 この条例は、高志の国文学館の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 富山県の自然及び風土の中ではぐくまれた文学作品その他の文学関係資料を紹介し、文学に関する県民の知識を深め、教養の向上を図るとともに、県民自らが親しみ、学び、創造し、交流することができるよう、県民に文学を中心とする文化活動の場を提供し、もって教育、学術及び文化の振興並びに心豊かな地域社会の形成に寄与するため、高志の国文学館（以下「文学館」という。）を設置する。

(位置)

第3条 文学館は、富山市に置く。

(事業)

第4条 文学館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 文学に関する書籍、原稿、文献、写真、フィルムその他の資料及び文学者に関する資料（以下「文学資料」という。）を収集し、保管し、及び展示し、並びに閲覧に供すること。
- (2) 文学資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、及び研修室等を設置してこれを利用させること。
- (3) 文学に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を開催すること。
- (4) 文学資料に関する専門的な調査研究を行うこと。
- (5) 文学資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、文学館の設置の目的を達成するために必要な事業

(指定管理者による管理)

第5条 知事は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であつて知事が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に文学館の管理を行わせるものとする。

(指定管理者が行う業務)

第6条 前条の規定により指定管理者に行わせる管理の業務は、次に掲げる業務とする。

- (1) 文学館の施設及び設備の維持管理に関する業務
- (2) 第13条第1項の規定による専用使用の承認に関する

業務

(3) 第15条第1項に規定する使用料の徴収に関する業務

(4) その他文学館の管理に関して知事が必要と認める業務（休館日）

第7条 文学館の休館日は、次に掲げる日とする。ただし、知事は、特に必要があると認めるときは、休館日以外の日に休館し、又は休館日に開館することができる。

- (1) 火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たる場合を除く。）
- (2) 休日の翌日（その日が日曜日、土曜日又は休日に当たる場合は、その日後においてその日に最も近いこれらの日以外の日）
- (3) 12月28日から翌年の1月4日までの日

(開館時間)

第8条 文学館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、研修室及び和室の開館時間については午前9時30分から午後9時まで、駐車場の開館時間については午前9時から午後9時30分までとする。

2 前項の規定にかかわらず、知事は、特に必要があると認めるときは、開館時間を臨時に変更することができる。

(平24条例38・一部改正)

(入館の拒否及び制限)

第9条 指定管理者は、文学館に入館しようとする者が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、入館を拒否することができる。

- (1) 他の入館者に迷惑となる行為をするおそれがあるとき。
- (2) 施設、設備又は文学資料（次条第1項第2号において「施設等」という。）を汚損し、又は損傷するおそれがあるとき。

2 指定管理者は、文学館の管理上必要があると認めるときは、入館を制限することができる。

(遵守事項等)

第10条 文学館に入館した者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 他の入館者に迷惑となる行為をしないこと。
- (2) 施設等を汚損し、又は損傷しないこと。
- (3) 指定された場所以外の場所で喫煙又は飲食をしないこと。
- (4) その他知事が特に指示した事項

2 知事は、文学館に入館した者が前項の規定に違反したときは、その者に退館を命ずることができる。

(常設展示観覧料及び企画展示観覧料)

第11条 常設展示室において展示している文学資料を観覧しようとする者は、別表第1に定める金額の常設展示

観覧料を納めなければならない。ただし、企画展示観覧料を納める者は、この限りでない。

- 2 企画展示室において特別に展示している文学資料を観覧しようとする者は、別表第1に定める金額の企画展示観覧料を納めなければならない。

(平24条例38・一部改正)

(特別観覧)

第12条 文学館に展示し、又は保管している文学資料について学術研究等のために模写、模造、撮影等をしようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

- 2 前項の承認には、文学資料の管理上必要な条件を付することができる。

- 3 第1項の承認を受けた者は、別表第1に定める金額の特別観覧料を納めなければならない。

(平24条例38・一部改正)

(専用使用の承認等)

第13条 文学館の施設のうち別表第1に掲げるものを専用して使用しようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。承認を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

- 2 指定管理者は、前項の承認を受けようとする者が第9条第1項各号のいずれかに該当すると認めるとき、その他文学館の設置の目的を達成するについて不適当と認めるときは、前項の承認をしないものとする。

- 3 第1項の承認には、文学館の管理上必要な条件を付することができる。

(平24条例38・一部改正)

(施設使用料及び駐車料金)

第14条 前条第1項の承認を受けた者(以下「専用使用者」という。)は別表第1に定める金額の施設使用料を、駐車場を使用する者は別表第2に定める金額の駐車料金を納めなければならない。

(平24条例38・一部改正)

(使用料の徴収方法)

第15条 常設展示観覧料、企画展示観覧料及び特別観覧料並びに施設使用料及び駐車料金(以下「使用料」という。)は、知事の発行する納入通知書により徴収する。ただし、これにより難い場合においては、口頭又は掲示の方法により現金で徴収する。

- 2 使用料は、前納とする。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(平24条例38・一部改正)

(使用料の減免)

第16条 知事は、特別の理由があると認めるときは、使用料を減免することができる。

(使用料の還付)

第17条 既に徴収した使用料は、還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(専用使用の承認の取消し等)

第18条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、第13条第1項の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

- (1) 専用使用者がこの条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。

- (2) 専用使用者が偽りその他不正の手段により第13条第1項の承認を受けた事実が明らかとなったとき。

- (3) 専用使用者が第13条第3項の規定による承認の条件に違反したとき。

- (4) その他文学館の管理上特に支障があると認められるとき。

(高志の国文学館運営委員会)

第19条 文学館に高志の国文学館運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

- 2 委員会は、文学館の運営に関し知事の諮問に応ずるとともに、知事に対し意見を述べるものとする。

第20条 委員会は、委員10人以内で組織する。

- 2 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 3 委員は、再任されることができる。

第21条 委員会に、委員長及び副委員長1人を置く。

- 2 委員長及び副委員長は、それぞれ委員が互選する。

- 3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(規則への委任)

第22条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成23年10月1日から施行する。ただし、第5条から第21条まで、附則第2項及び別表第1の規定は、規則で定める日から施行する。

(平成24年規則第40号で附則第1項ただし書に規定する規定は、平成24年7月6日から施行)

(平24条例38・一部改正)

(施設使用料の特例)

- 2 前項の規則で定める日から起算して2年を経過する日までの間における別表第1の4の規定の適用については、同表中「4,230円」とあるのは「2,820円」と、「840円」とあるのは「560円」と、「3,780円」とあるのは「2,520円」とする。

円」と、「750円」とあるのは「500円」と、「1,350円」とあるのは「900円」と、「270円」とあるのは「180円」とする。

(平24条例38・一部改正)

附 則 (平成24年条例第38号)

(施行期日)

1 この条例は、平成24年7月6日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の日から平成25年3月31日までの間における第6条の規定の適用については、同条第1号中「施設」とあるのは「施設(駐車場を除く。)」と、同条第3号中「使用料」とあるのは「使用料(駐車料金を除く。)」とする。

別表第1 (第11条、第12条、第13条、第14条関係)

(平24条例38・旧別表・一部改正)

1 常設展示観覧料

区 分	金額 (1人1回につき)	
	個人	20人以上の団体
大学の学生及びこれに準ずる者	160円	100円
一般	200円	160円

備考 小学校の児童、中学校の生徒、高等学校の生徒及びこれらに準ずる者に係る常設展示観覧料は、無料とする。

2 企画展示観覧料

1人1回につき1,500円の範囲内で知事が定める金額

3 特別観覧料

1回1点につき4,000円の範囲内で知事が定める金額

4 施設使用料

区 分		使用時間3時間までの金額	超過時間1時間の金額
研修室1	全部使用	13,770円	3,440円
	2分の1使用	6,840円	1,710円
研修室2		4,230円	840円
研修室3		3,780円	750円
研修室4		1,350円	270円
研修室5		1,350円	270円
和室		1,620円	320円
附属設備		実費を勘案して知事が定める額	

備考

1 使用時間1時間未満の端数は、1時間として計算する。

2 使用時間を短縮した場合においても、施設使用料は、減額しない。

別表第2 (第14条関係)

(平24条例38・追加)

種 別	単 位	金 額
基本料金	入場した時から1時間までにつき1台	320円
加算料金	入場した時から1時間を超える時間30分までごとにつき1台	110円

高志の国文学館の職員の 勤務時間に関する規程

平成24年7月5日
富山県訓令第10号

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程を次のように定め、公表する。

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程
(趣旨)

第1条 この訓令は、県職員及び県費負担教職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例（昭和26年富山県条例第73号）第4条第1項及び富山県職員の勤務時間に関する規程（昭和27年富山県訓令第1号）第3条の規定に基づき、高志の国文学館の職員（知事の指定する者を除く。以下「職員」という。）の勤務時間に関し必要な事項を定めるものとする。

(勤務時間)

第2条 職員の勤務時間は、午前8時30分から午後5時15分までとする。

2 高志の国文学館長（以下「館長」という。）は、業務の状況により必要があると認めるときは、勤務時間を繰り上げ、又は繰り下げることができる。

(週休日及び勤務時間の割振り)

第3条 館長は、職員の週休日を日曜日及び土曜日以外の日とすることができる。

2 職員の勤務時間の割振りは、館長が定める。

(休憩時間)

第4条 職員の休憩時間は、1時間とし、館長が勤務時間の途中に置く。

附 則

この訓令は、平成24年7月6日から施行する。

高志の国文学館の 使用料の額について

平成24年7月5日
富山県告示第317号

高志の国文学館の使用料の額について

高志の国文学館条例（平成23年富山県条例第41号）別表第1の4の表の知事が定める額は、次のとおりとし、平成24年7月6日から施行する。

品名	単位	金額
ビデオプロジェクター (スクリーン付)	1式	2,850円
拡声装置(マイク付)	1式	2,420円

備考 この表に掲げる金額は使用時間3時間についての額とし、使用時間3時間未満の端数は3時間として計算する。

平成25年度 高志の国文学館 年報

平成26年11月25日発行

編集 高志の国文学館

富山県富山市舟橋南町2-22

印刷 北日本印刷株式会社

発行 高志の国文学館
